

アフガニスタンの人道状況に関する ハイレベル・プレッジング会合 林大臣発言(日本語仮訳)

グテーレス国連事務総長、ムハンマド・アール・サーニー大臣、トラス大臣及びベアボック大臣、本日の会合を主催されたイニシアティブを高く評価いたします。

ウクライナ情勢に世界の耳目が集まる中、アフガニスタンの人道状況への対応は引き続き重要です。2022年のアフガニスタン人道対応計画は、世界最大規模となる約44億ドルのアピールとなっており、同国の状況の深刻さを物語っています。アフガニスタンにおける人道危機を回避するため、国際社会が一致して取り組むよう呼びかけます。

日本は、現在のアフガニスタン及び周辺国の人道危機に対処するため、国際機関を通じて総額約1.09億ドルの支援を行うことを決定しました。

【大臣発言終了、以下中東アフリカ局長発言】

林大臣が表明したとおり、日本はアフガニスタンへの支援にコミットしています。こうした中、最近タリバーンが、女子の中等教育再開を延期する旨発表したことは、極めて遺憾であり、タリバーンに対して即時撤回を求めます。性別に関わらず全ての国民があらゆるレベルの教育を受ける権利が保証されなければなりません。

アフガニスタンの安定は地域・国際社会の安全保障にとって重要であり、日本は、アフガニスタンの人々への支援を継続していきます。タリバーンは、アフガニスタンの人々と国際社会の声に応じて前向きな行動を取っていく必要があります。女性・少数派を含む全てのアフガニスタン人の権利尊重、包摂的な政治体制の構築、テロとの決別等がこの取組には不可欠です。

同時に、アフガニスタンの人道危機の更なる悪化を防がなければならず、人道アクセスの確保と資金流動性の問題への対応が極めて重要です。

我々は今後も、近隣諸国も含めて各国との連携を重視していきます。

ありがとうございました。